



企画：南日本新聞メディアプロ

住まいと金 スマートな付き合い方を考える

昨年から続く新型コロナウイルス感染症によるパンデミックは、私たちの生活を大きく変えました。それはまた、いままで当たり前だった生活を見つめ直し、新しい暮らし方を考えるきっかけにもなっています。なかでも住まいに関しては、おうち時間が増えたことで過ごしやすくして体や環境に良い住空間への関心が高まっています。お金については、家計に深刻な影響を及ぼす突然のリスクにかねてから備えておくことの重要性を再認識させられました。安心・安全でスマート(賢い)な暮らし方について、住まいとお金の専門家にそれぞれアドバイスしてもらいました。

2019年鹿児島県木造住宅コンテスト知事賞

「勉強コーナー」のある間取



お勧めします。間取りに反映したや生き方を反映した棚を設けるなど、趣味と書斎の壁一面に本棚を設けるなど、趣味や生き方を反映した間取りに反映したお勧めします。

長い年月にわたり、毎日住むのが住宅。穏やかで居心地が良く、完成した時よりも年月が経つにつれて味わいが深まる家づくりのためには、飽きのこない素材や形を選び、そこで育った子どもたちの原風景となるような建物にしたいものです。最近の家づくりでは、部屋を仕切るのではなくて家族の気配を感じ合えるような間取りが増えています。子育て世代では、特に子ども部屋を設けるのではなく、その代わり

最近60代で住宅のリフォームをされる方が増えています。定年後は家で過ごす時間が多くなるので、いかに心地よく暮らすかは人生の満足感を得られることにつながり、人の一生においてとても大切なことです。若いころ建てた家は子育て重視で、自分たちのことはどうしても二次的になりがちです。60代になると自分の価値観は決まってくるので、ピタッと合わせた家づくりができます。例えば読書が好きならば、読書の壁一面に本棚を設けるなど、趣味や生き方を反映した間取りに反映したお勧めします。

リビングに勉強スペース

建設資材もなるべく、県産材を壁や床に利用することで快適に過ごせるだけでなく、森林保全にも役立ちます。

家づくりにとって、長く住み続けるだけに土地探しはとても重要です。まずは郊外に住みたいのか、市街地に住みたいのかを決めて、お目当ての土地があったら何度も通って決めることをお勧めします。その際、天候も晴れの日と雨の日、時間帯も朝、昼、夜と現地に出向き、日当たりや風の流れ、周囲の騒音などを体感して確認します。また、隣近所はコミュニティーとしてどんな雰囲気なのかも確かめるなど、時間をかけてじっくり選ぶことが大切です。

土地選びはじっくりと

住宅設計で私が最も大切にしているのが食堂。敷地を見た時にまず、家族はどこで毎日食事をしたいだろうかと考えます。敷地の中で眺めや日当たりが一番良いところを選び、そこに食堂を設定してからキッチン、リビングと広げていきます。毎日の食事は人生の楽しみですし、一緒に食事をすることで家族の絆も深まります。

風土に合った家づくり

快適で人にも地球環境にも優しい家づくりの基本は、その土地の風土に合わせて建てられた昔ながらの民家に凝縮されています。鹿児島の場合、高温多湿の風土に合わせて強い日差しを遮り、外壁を熱や汚れから守り、雨が室内に降り込まないなどの効果がある庇や大屋根が特徴です。家が傷みにくいので家の寿命が長くなり、陰をつくるので涼しい風が室内に入ってきます。その風がスムーズに流れるように間取りが工夫され、自然の省エネにつながっています。

にリビングや食堂の片隅に子どもが勉強できるスペースを設けるケースが増えています。住宅設計で私が最も大切にしているのが食堂。敷地を見た時にまず、家族はどこで毎日食事をしたいだろうかと考えます。敷地の中で眺めや日当たりが一番良いところを選び、そこに食堂を設定してからキッチン、リビングと広げていきます。毎日の食事は人生の楽しみですし、一緒に食事をすることで家族の絆も深まります。

小森昌章建築設計事務所 代表取締役 小森 昌章さん

「年月が経つほどに味わいの出る家」
スマートな家づくりとは